

2020 年度第 1 回学術情報流通推進委員会
議事要旨

1. 日時:2020 年 8 月 17 日(月)15:00-17:00

2. 場所:オンライン開催

3. 出席者:

(委員)

逸村委員(筑波大学), 倉田委員(慶應義塾大学), 野崎委員(高エネルギー加速器研究機構), 深貝委員(横浜国立大学), 竹澤委員(早稲田大学), 江川委員(東京大学), 相原委員(北海道大学), 林委員(科学技術・学術政策研究所), 中島委員(科学技術振興機構), 武田委員長, 木下委員(国立情報学研究所)

(陪席)

土井参事官補佐, 麻沼係長, 若狭係員(文部科学省), 合田部長, 船守准教授, 平田室長, 新妻係長(国立情報学研究所)

(事務局)

小野課長, 片岡副課長, 古橋係長(国立情報学研究所)

4. 議事:

議事に先立ち, 各委員から自己紹介を行った。

(1) 前回議事要旨について

事務局(古橋係長)より, 前回議事要旨について資料 1 に基づき説明した。

(2) 2020 年度学術情報流通推進委員会活動報告について【報告】

事務局(古橋係長)より, 資料 2 及び参考資料 2, 3 に基づき説明後, 武田委員長及び野崎委員より最新状況について以下の補足説明があった。

【arXiv について】

- ・ 昨年度から空席だった事務局長が Eleonora Presani さんに決まった。ブランディング・タスクフォースを立ち上げ, arXiv の位置づけを再定義する動きがある。
- ・ Member Advisory Board(MAB)は 9 月に開催予定。

【SCOAP3 への活動支援について】

- ・ 日本の拠出金額の不足について, NII, KEK, 執筆数の多い 4 大学で協議している。
- ・ 昨年 of 理事会において, 新たに SCOAP3 for BOOKS という取り組みの紹介があった。日本に対しても支援の依頼があり, 対応が必要となる。

(3) ポジションペーパーの取りまとめについて【審議】

事務局(古橋係長)より, 資料 3-1, 3-2 及び参考資料 4 に基づき説明後, 下記意見交換を行った。審議の結果, 武田委員長と林委員ほか数名の委員で小グループを作り, 俯瞰図のリバイズをすることとなった。

【俯瞰図の作成について】

- ・ オープンアクセスにおいて、各ステークホルダーの活動が何であるかに加えて、役割・貢献が分かる形でまとめるべきではないか。
- ・ この俯瞰図をどう使うのか、「国内外のオープンアクセス・オープンサイエンス推進のための戦略提言」につなげるのであれば、オープンアクセスの課題・構造を明確にした上で整理する必要がある。
- ・ 全体の構造を示す際に、ジャーナルパブリッシング、オープンアクセス、オープンサイエンス・オープンデータという3つの課題の構図を明確に分けてまとめる必要がある。
- ・ 時間軸を加えて、過去から現在、未来へと何枚かの絵に分けることも考慮できるのではないか。
- ・ OA に関する知識共有を推進し、大学内で執行部に対して説明する際に活用できる資料として、また、研究者の視点も考慮されているとよいのではないか。

(4) SPARC Japan セミナー2020 について【審議】

事務局(古橋係長)より、資料 4-1, 4-2 に基づき説明後、SPARC Japan セミナー企画 WG 主査の林委員から補足説明のうえ、下記意見交換を行った。

審議の結果、意見交換の内容を考慮し、各回の開催内容について改めて WG にて検討することとなった。

【SPARC Japan セミナーについて】

- ・ 第2回のテーマ案になっている Biodiversity は、面白いテーマではあるが、多様な要素を含む大きなキーワードでもあるため、どこかに焦点を絞って議論を深める形がよいのではないか。研究成果の発信における変容を呈示する啓発的な意味があるにせよ、整理して見せ方を工夫する必要がある。
- ・ 3回とも聴衆のターゲットが異なるため、想定聴衆の軸足を明確にして企画を進めてほしい。

(5) 海外動向を踏まえた情報発信について【審議】

事務局(古橋係長)より、資料 5 に基づき説明後、下記意見交換を行った。

審議の結果、喫緊のトピックがないことから、課題の発生に応じて対応することとなった。

【トピック案について】

- ・ 昨年度対応した Plan S に関連して、Plan S のインパクトと評価に関する WG を立ち上げる、という話がある。議論に際して、個別に相談させていただきたい。

(6) その他

ほかにも議題等がないことを確認し、終了した。